

美術科学習指導案

指導者 教諭 佃 里子

1. 日 時 平成22年11月2日(火) 6校時
2. 学 級 2年1組 男子20名女子18名 計38名 第3校舎4階 美術室
3. 題材「おのれの証をつくろう」(篆刻)
4. 題材について

(1) 題材設定について

本題材の「篆刻」は、新学習指導要領の〔第2学年及び第3学年〕の2内容の(2)の指導内容をもとに設定した題材である。この時期の生徒は、社会的な視野の広がりとともに、その中の自分というものを意識するようになる。それが美術における表現にも現れ、自分らしい表現の欲求も高まってくる。自己のイメージや自分の好きなもの、こだわりのあるものなどを考えさせ、デザインに生かすことによって、自分らしさの表現を追求させたい。また、自分らしさを表現するために、今まで学習してきた内容を応用、工夫をしながら制作させていきたいと考える。線の太さや形によって全く印象が変わることなどの表現方法に気づかせ、試行錯誤させる時間を大切にしていきたい。生活に密着したものを制作することで、出来上がった作品を実際に自分が使うことを想像し、作品制作における達成感や充実感、表現することの楽しさを味わわせたい。また、本題材に取り組みせることによって、立体作品の魅力、石を彫ることの感覚や面白さも味わわせたい。

(2) 生徒について

生徒はこれまで、自分の意図したことを作品に効果的に表現する学習を、段階を経て積み重ねてきた。1学年ではレタリングや色彩の学習など、美術の基礎的基本的な内容を身につけさせることを目的に学習し、2学年ではその基礎的基本的な技能に新しい技法や画材を加え、作品を見る人に伝えたいことをいかに効果的に伝えられるかを追求しながらポスター制作に取り組んできた。

2学年の多くの生徒は学習に対して前向きであり、積極的に制作に取り組むことができる。しかし、表現を考えることや工夫においては、教師のアドバイスに頼りがちである。また、成長期を感じさせる生徒もみうけられるようになってきた。成長期である生徒自身に自分自身の内面について考えさせるとともに、自分の思いを大切に表現方法を考えさせていきたい。

(3) 指導について

「自分の印鑑を制作する」ことは自己の内面を考え、自分らしさとは何か考えて制作することである。テーマを「おのれの証」として取り組むことで、成長期にさしかかった生徒の内面に、自分とは何か問いかけ、考えさせることによって自分の存在する意味を考えるきっかけとさせ、さらなる成長をさせたいと考える。

自分の思いや考えを大切に、表現活動ができる力を身につけさせるため、互いの作品を批評し合うなどの時間を意図的に設定し、取り組ませたいと考える。また、2年1組の生徒は制作過程において、見通しを持って取り組めない生徒も少なくないことから、学習シートを一冊のテキストにまとめて取り組ませることとした。

5. 指導と評価の計画(別紙)

6. 本時の指導

(1) 本時の目標

デザインに込めた思いや自分の考えを主張させるとともに、考えを交流させながら作品を深く味わわせ、より自分らしさを追求したデザインを考える。

(2) 本時の評価規準

美術への関心・意欲・態度	デザインに込めた思いや自分の考えを積極的に発表しようとする。
発想や構想の能力	より自分らしさを追求したデザインを考えることができる。
創造的な技能	
鑑賞の能力	他の人の作品を味わって感じたことを文章にまとめることができる。

7. 本時の構想

(1) 本時の構想

今まで学習してきたことや体験をもとに、個々で篆刻印面のデザインを考えてきた。本時は鑑賞を通して、そのデザインをさらに深め考えさせる時間である。自分のデザインをもとに、自分らしさを表現するための考えや工夫を発表させ、小グループ（3～5人）において相互に鑑賞する。また、自分らしさを表すための表現方法を確認し、さらに深めさせたいと考える。他者の考えや工夫を鑑賞することでより自分らしさを追求したデザインに迫らせたい。

(2) よく考え、伝え合う活動について

自分らしさにより迫った表現を追求するには、「よく考え、伝え合う活動」が有効ではないかと考えた。個々に考えたデザインをもとに、自分らしさを表現するための考えや工夫を発表させ、小グループ（3～5人）において相互に鑑賞する。また、全体の場面においてもその場面を設定することによって、幅広い考えや表現方法を知ることにつながり、作品にも生かせるのではないかと考える。

8. 本時の展開

段階	過程	学 習 活 動	よく考え伝え合う活動を通してねらいにせまるための手立て	
			評価の視点	指導上の留意点
導入 5分	課題づくり	1 前時までの学習想起 ・篆刻デザインを振り返る 2 学習課題の確認		・ 本時の学習課題を理解させ、プリントに記入させる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">仲間や友だちの意見やアドバイスを聞いて、より自分らしいデザインを考えよう</div>				
展開 40分	課題追求	3 グループ内鑑賞会 ・ 3～4人で鑑賞する ・ デザインを発表する生徒 ○作品を見せ、どんな印象が伝わるか聞く ○デザインに込めた自分の思いを発表する ・ デザインを見ながら思いや考えを聞く生徒 ○作品を見て、どんな印象が伝わるか発表する ○作者がデザインに込めた思いや工夫を聞く ○疑問点を質問する ○アドバイスや感想を発表する 4 デザインへの加筆・修正をする 5 全体作品鑑賞 ・ 作品を鑑賞する ・ 加筆、修正をしてみたの発表する	・デザインに込めた思いや自分の考えを積極的に発表することができる。 ・仲間のデザインについて感じたことや考えたことを積極的に発表することができる。 ・より自分らしさを追求したデザインを考えることができる。	・発表できないグループや生徒の援助をする。 ・テキスト 11 ページを見せながら発表させる。 ・デザインを発表した生徒は、仲間のアドバイスなどをメモさせながら聞かせる。 ・より自分らしさを表現させるためには・・・を考えさせ、デザインの加筆、修正をさせる。 ・なぜ加筆、修正をしたのか、理由や気持ちを話させたい
終結 5分	まとめ	6 まとめと感想発表 ・鑑賞した感想を学習シートにまとめ発表する	・他の人の作品を味わって感じたことを文章にまとめることができる。	

5. 指導と評価の計画（別紙資料）

二戸市立福岡中学校

2年美術		題材名 おのれの証をつくろう～篆刻～				総合時間 13時間	
学習指導要領の指導項目							
<p>A表現（1）感じ取ったことや考えたことなどを基に、絵や彫刻などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を指導する。</p> <p>ア 対象を深く見つけ感じ取ったこと、考えたこと、夢、想像や感情などの心の世界などを基に、主題を生み出すこと。</p> <p>（2）伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動を通して、発想や構想に関する次の事項を指導する。</p> <p>イ 伝えたい内容を多くの人々に伝えるために、形や色彩などの効果を生かして分かりやすさや美しさなどを考え、表現の構想を練ること。</p> <p>ウ 使用する者の気持ちや機能、夢や想像、造形的な美しさなどを総合的に考え、表現の構想を練ること。</p> <p>（3）発想や構想をしたことなどを基に表現する活動を通して、技能に関する次の事項を指導する。</p> <p>ア 材料や用具の特性を生かし、自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現すること。</p> <p>イ 材料や用具、表現方法の特性などから制作の順序などを総合的に考えながら、見直しをもって表現すること。</p> <p>B鑑賞（1）美術作品などのよさや美しさを感じ取り味わう活動を通して、鑑賞に関する次の事項を指導する。</p> <p>ア 造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫、目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り見方を深め、作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなどして、美意識を高め幅広く味わうこと。</p>							
題材の目標		主な学習活動	評価規準	美術に関する関心・意欲・態度	発想や構想の能力	造形的な技能	鑑賞の能力
<ul style="list-style-type: none"> ・篆刻の制作や鑑賞を通して自分を見つめ、自分らしさを考えることができる。 ・印面や持ち手から、自分らしさを生かした作品を制作することができる。 		<ul style="list-style-type: none"> ①篆刻について知る ②印面のデザインを考える ③印面を彫る ④持ち手のデザインをする ⑤持ち手を彫る ⑥作品鑑賞 	<p>B＝「おおむね満足できると判断される状況」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・篆刻についての説明や話を聞いて、考えたり感じたりしようとしている。 ・自分らしさをよく考え、集中して制作しようとする。 ・作品に込めた思いや自分の考えを積極的に発表しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分について考え、構想を練ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表したい自分をデザインに表現することができる。 ・デザインをもとに、彫り方の基本を理解し制作することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の作品のよいところを認めることができる。 ・鑑賞を通して感じたことを自分の作品に生かしている。
			<p>A＝「十分満足できると判断される状況」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・篆刻についての説明や話を聞いて、すすんで考えたり感じたりしようとしている。 ・篆刻に関心を持ち、自分らしさについて積極的に考え、集中して制作しようとしている。 ・作品に込めた思いや自分の考えを積極的に発表しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分を見つめ、本当の自分らしさとは何か追求し、構想を練り上げることができる。 ・印面と持ち手の関連性を考え、構想を練ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・印面と持ち手に自分らしさを十分に考えたデザインから、完成度の高い作品を制作することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の人の作品を味わって、思いや巧み夫、心情などを感じ取ることができる。 ・鑑賞を通して感じたことをもとに、自分なりの工夫を加え、作品に生かしている。
			<p>C＝「努力を要すると判断される状況」の生徒への指導の手だての例</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常で使用する場面を提示し、イメージを持たせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞などを通して、級友などからアドバイスをもらい、そこから考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習テキストで制作手順やポイントを振り返りさせながら作業を進めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段何気なく見過ごしている身のまわりにある物に目を向けさせ、見方がいろいろあることに気づかせる。
次	時	主な達成目標	主な学習活動	美術に関する関心・意欲・態度	発想や構想の能力	造形的な技能	鑑賞の能力
1	1 h	篆刻とは何か、印の種類、特徴について理解することができる。 印面仕立ての大切さを理解し、作業を正確にすることができる。	・篆刻について知り、印面仕立てをする。	・篆刻についての説明や話を聞いて、考えたり感じたりしようとしている。 ・積極的に発表しようとする。 ・積極的に制作しようとする。		・印面仕立てを的確に作業することができる。	
2	3 h 本時 3/3	自分らしさについてよく考え、表したい自分をデザインに表現することができる。 互いの作品を批評し合い、構想を練り上げながら制作に生かすことができる。	・印面のデザインを考える。 ・鑑賞会を通して、自分らしさを追求したデザインを深める。	・自分らしさをよく考え、集中してデザインを考えようとしている。 ・デザインに込めた思いや自分の考えを積極的に発表しようとする。	・自分らしさとは何かよく考え、篆刻の構想を練ることができる。	・表したい自分をデザインに表現することができる。	・互いの作品を批評し合い、構想を練り上げながら制作に生かしている。
3	2 h	彫り方を理解し、道具を使って正確に印面を彫ることができる。	デザインをもとに印面を制作する。	・印面を積極的に制作しようとする。		・デザインをもとに正確に印面を彫ることができる。	
4	2 h	表したい自分を印面と持ち手の両方から構想を練り、デザインに表現することができる。	持ち手のデザインをする。	・自分らしさをよく考え、集中してデザインを考えようとしている。	・自分さしとは何か、印面と持ち手の両方から構想を練ることができる。	・表したい自分をデザインに表現することができる。	
5	4 h	デザインをもとに立体彫刻にすることができる。	デザインをもとに持ち手を制作する。	・持ち手を積極的に制作しようとする。		・デザインをもとに正確に持ち手を彫ることができる。	
6	1 h	作品鑑賞を通して、他の人の作品のよさを味わうことができる。	作品を鑑賞し合い、感じたことを発表し合う。	・デザインに込めた思いや自分の考えを積極的に発表しようとする。	・制作を通して自分を見つめることができる。		・他の人の作品から思いや工夫を感じたことを文章にまとめることができる。

おのれの証 ～デザインに工夫された自分らしさを考える～

年 組 番名前

《学習課題》

1 グループ内鑑賞会

＜発表者の手順＞

1. 作品を見せる（前ページ）
2. デザインに込めた思いを発表する（前ページ）

＜鑑賞者の手順＞

1. 作品を見る、味わう、考える
2. 発表を聞いて疑問点を質問する
3. 感想を話す

鑑賞メモ

2 デザインに工夫を加えよう

3 全体鑑賞会

4 全体鑑賞会をした感想を書こう